



デンマークの 食と暮らし研究会

NEWS LETTER MAR 2025

発行：NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F
Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406

H.C.アンデルセンと森鷗外



デンマークのアンデルセンは童話作家として有名ですが、当時は紀行文の方が作品としてよく知られました。例えば1835年の『即興詩人』が代表的です。即興詩人はアンデルセンの半自伝でもあり、現実的な雰囲気を持つ記述と、ロマンチックな夢物語が融合し、自伝と1人称視点の小説が混合するという複雑な紀行文文学でした。

これを明治期の軍医であり小説家として知られている森鷗外が日本語に翻訳し、1902年に出版しました。森鷗外は原作を1人称視点の小説として統一し、宗教的な部分を省略し、言葉を選びなおして、日本人が理解しやすく感情移入しやすい作品へと変化させました。結果的に森鷗外の『即興詩人』とアンデルセン原作の『即興詩人』とは、似て非なる物に仕上がりました。

当時の日本は江戸から明治に移り変わり、文明開化の真っただ中でした。こうした中で、文学の面でも西洋を取り入れる動きも見られました。文学作品から西洋を学び、その学びを日本人として消化（理解）しようという試みでした。こうした文化の咀嚼、日本化を試みた教養者の一人が森鷗外だったと言えます。彼は「小説」という輸入芸術がまだ浸透していない日本文学界と読者の現状を考えると、日本人の文化的な背景に合わせた日本語訳で翻訳作業することが適切ではないかと考えたのです。

森鷗外は、自分もまだ見ぬデンマークという異国に住む作家の心中を思いつつ、日本国の発展を願っていたのでしょう。原作と鷗外訳との違いを考察することで、二人の作家に想いを馳せることが出来るかもしれません。(H.W.)

自転車大国 デンマーク



デンマークでは国民の約45%が自転車で通勤・通学しています。国民の10人に9人が自転車を所有しているというデータもあります。なぜデンマーク人は自転車をこうも活用するのでしょうか？

まずは公道における自転車専用設備が非常に整っていることです。自転車用のレーンはもちろん、自転車用の信号機まで備わっています。歩道を歩く人は自転車に気を付けて歩かなければいけません。ついうっかり歩行者レーンだと思って歩いていると、そこが自転車レーンで、自転車を乗っている人にベルを鳴らされる、ということもよくあります。

この自転車専用道路は、自動車用道路と明確に区切られています。ゾーン分けされているだけでなく、駐車などで自動車がそのレーンを塞がないよう、駐車区画は別に確保されていることもあります。つまりまったく独立した道路として、自動車用と自転車用とが並びあっている形になるのです。このように明

確に区画化し、ルールを定めることで快適で安全な自転車利用が行われていると考えられます。

日本にも自転車専用道路は存在していますが、十分な道幅を確保出来ないまま、法律上でのみ軽車両と再認識されてしまったため、道路を自動車と並走しなければならない状態が続いているのです。

もう一つはデンマーク国土のほとんどは平地であり、坂が非常に少ないことです。そのため、首都コペンハーゲンだけでなく、地方都市や各地を含めて自転車に乗りやすいのです。この走りやすい地理特性から、デンマーク人は平均して1日15キロメートルを自転車で走るといわれています。

こうした自転車に対する国を挙げての整備の背景には、国の医療費負担軽減、環境負荷の軽減、インフラ維持費の軽減等があると言われています。自転車を日常使いすることで運動の機会を増やし、肥満や成人病予防を国民それぞれがすることで、防げる病を防ぎ、不必要な国の医療負担を軽減させる狙いがあるのです。その根拠になり得る一つのデータとして、2017年にイギリスのグラスゴー大学で、自転車通勤が早死にのリスクを41%下げるという研究結果が発表されました。

また、インフラの設置・維持には多大なコストがかかるものですが、コペンハーゲン市当局は自動車と自転車の移動を比べた時に、移動距離1キロあたり市の負担が約7円節約になることも発見しました。こうした研究結果を背景にして、国も自転車に乗りやすいインフラ作りを後押ししています。

国会議員も全体の63%が自転車通勤するなど、自転車にまつわるユニークな話は枚挙にいとまがありません。「デンマークサイクリング大使館」という団体まで発足しているくらいで、より詳しい統計などをご覧になりたいければ、ぜひのぞいてみることをお勧めします。(H.W.)



デニッシュマークは安心ポークの証し

デニッシュマークは、良質なデンマーク産豚肉を使用した製品やメニューに表示されています。



ボキューズ・ドール国際料理コンクール

2025年1月25日、フランスのリヨンにてボキューズ・ドール国際料理コンクールが開催されました。ボキューズ・ドール国際料理コンクールは2年に一度開催される料理の世界大会です。1987年に“現代フランス料理の父”と称されるポール・ボキューズ氏によって創立されて以来、コンクールは「美食のワールドカップ」として注目を集め、世界各国から選出されたシェフが実力を示す場であり続けています。

今年はセバスチャン・ホルベア・スヴェンスガードシェフ率いるデンマーク代表チームが総合2位の座に輝きました。優勝チームはポール・マルコンシェフ率いるフランス代表でした。日本は丸の内ビルディングにあるレストラン「サンス・エ・サヴール」の副料理長を務めている貝沼竜弥シェフが出場し、健闘の結果11位という成績でした。



デンマークはこれまでに3回の優勝実績を持つ実力のある国です。

今回出場したセバスチャンシェフは、デンマークで初のミシュランの三ツ星を獲得したレストランであるGeraniumで働いていた実績があります。コペンハーゲン・ホスピタリティ・カレッジという専門学校に用意された本番と同じキッチンを使い、自身の仕事を1年近く休んで大会に向けて練習を重ねてきました。

この資金はデンマーク農業理事会が政府や民間のスポンサーから1億円ほど集めて提供しています。

今回は惜しくも優勝を逃しましたが、24か国中2位という素晴らしい成績をおさめたセバスチャンシェフの今後の活躍に目が離せません。(S.N.)



デンニッシュクラウンCEO Niels Duedahl氏 就任レセプション



2025年2月17日(月) 東京會館ロイヤルルームにて、デンニッシュクラウン社のCEOであるNiels Duedahl氏の就任レセプションが開催されました。

当日は約100名の日本市場関係業界の方々にお集まりいただき、Niels Duedahl氏から就任のご挨拶と共に、今後の日本市場に対するデンニッシュクラウンの事業方針や抱負が語られました。

CEO Niels Duedahl 氏



デンマークチーズ協会 役員会・総会開催のお知らせ

開催日時 2025年4月16日(水)
役員会 午後3時～午後4時 11F「桜の間」
総会 午後4時～午後5時 11F「桜の間」
懇親会 午後5時～午後7時 11F「白鳥の間」
於 KKRホテル東京
東京都千代田区大手町1-4-1 03-3287-2921

ご案内・詳細は3月中に会員様宛に送付させていただきます。

編集後記

3月に入ってから寒くなったり暖くなったりを繰り返すような毎日でしたが、ようやく春らしい気候になってきましたね。

日本には奈良時代からお花見という素晴らしい文化があります。今年も皆さん思い思いの場所で楽しめることだろうと思います。

さてコペンハーゲンでは、今年も桜フェスティバルが開かれます。2008年から始まったこのイベントは、今やお花見だけではなく日本文化全般をデンマーク人に伝える人気のイベントになっています。

もし機会があればぜひ足を運んでみてくださいね。(H.W.)



デンニッシュマークは安心ポークの証し

デンニッシュマークは、良質なデンマーク産豚肉を使用した製品やメニューに表示されています。

